

駒川商店街にモバイルポイントシステムを導入 商店街ネットワークを生かした共通ポイントも視野に

クークー

クークーは大阪市・東住吉区の駒川商店街に、携帯電話のメール機能と2次元バーコードを利用したポイントシステムを導入している。

携帯電話に1次元・2次元バーコードを表示してポイントを管理する場合、そのほとんどが専用のバーコード読み取り端末を利用するケースが多い。それに対し、駒川商店街の加盟店ではバーコードの読み取り機能のある携帯電話を使って情報を処理している。

「商店街の各店舗が読み取り専用の端末を購入する場合、経費がかさみます。その点、携帯電話を利用すれば低額の初期費用と月々の運営費のみでポイント管理が実施できます」とクークー・マーケティングマネージャーの尹成文氏は話す。

システムは「駒川のおおきに」が貯

まるポイントケータイシステム タマール」と命名。利用者はまず、駒川商店街の専用サイトで会員情報を登録する。登録後、会員の携帯電話に2次元バーコードがついたメンバーズカードがメールで送られる。会員は2次元バーコードを画面メモに保存。店舗での商品購入時にこの画面を表示し、店員が携帯電話で読みとる。貯まったポイントは、専用サイトの会員ログイン項目でID、パスポートを入力すればいつでも確認できる仕組みだ。

「店舗にとっては会員証の発行、会員受付、会員データ登録など、面倒なオペレーションが不要です。一方、会員にとってはポイントを扱っている店舗の情報やポイント確認をいつでも持ち歩く携帯電話で閲覧できるため、商店街をよく利用



▲携帯電話を利用して2次元バーコードを読みとるため、専用の読み取り機は不要

されるお年寄りの方にも喜ばれています」と同社・商店街システム担当の宮坂誠氏は成果を語る。

クークーでは、商店街専門サイト@city（アットシティ）を運営。すでに全国300の商店街が同サイトに加盟していることから、今後は複数の商店街が共通で利用できるモバイルポイントシステムの展開も検討している。